

第8回総務・企画・議会小委員会（議事概要）

日 時 平成14年11月11日（月）PM1:30~PM3:30

場 所 丹後町役場

出席者数 13人（欠席1人）

傍聴者数 3人

主な議題

（1）協議第1号 19-6 消防団の取扱い（継続協議）

（2）新市建設計画の具体化等について

（3）次回の議題について

（4）次回の小委員会の日程

議事経緯

委員長あいさつ

会議の成立確認

議題

（1）協議第1号 19-6 消防団の取扱い（継続協議）・・・確認

消防団について、平成16年3月31日まで現行どおりとし、平成16年4月1日をもって1消防団に再編する。

主な意見

委員 「現員数を定数とする」というのには抵抗がある。消防団員の定数については、「消防力の基準」や町独自の基準で決められていると思うので、後で検討されるにしても現在の定数で新市に引き継いだほうがよいのではないかと考えている。

部会長 消防力の基準では、範囲、世帯数、面積で口数（消防車の台数）が決められており、さらに団の組織の中で消防車1台あたり何人というのが決められている。消防力の基準で行くと人数は火災時のみだが、団員数は災害等を考えた数になっており、消防力の基準よりはるかに多い定数となっている。また現在の条例定数でいくと各種掛け金に関係してくるので、現員数を考慮した。平成16年3月1日付けでは「現員数を定数とする」という条例になり、4月1日の新しい組織での定数は「何人」ということまで入れた条例として、条例改正していくことになるかと考えている。

委員 網野町では56人の欠員となっており、これは消防力を踏まえながら統合等整理を行い定数改正をしていく方向であるが、丹後町、弥栄町についてはどういう理由で欠員となっているのか。

部会長 欠員について網野町は見直しを実施し定員改正を予定しており、峰山町では中途

退団が出たもの、大宮町は現在見直しの最中であり、丹後町、弥栄町についてはわからない。

委員 団員の報酬について、現在の6町の支給額を上回らない範囲ということだが、これは首長が決めるのか報酬審議会で決めるのか。

部会長 本来なら、特別職の報酬審議会での審議と考えるが、新市に引き継ぐ時点では新市の報酬審議会がなく、専決という形の暫定的なものになるが、特別職の報酬については、まとめて別途小委員会に諮りたい。

委員 平成16年4月の組織の再編時に分団等の統合がありえるのか、また消防計画はいつごろ見直されるのか。

部会長 組織については旧消防団をブロックとして、その下に分団、部を設けるということでスタートしたい。それ以降の見直しは、色々な方面から検討されると考えられるが、部の統廃合を含めたものになると思う。消防計画については、新市になりすぐに取り掛からねばならないものである。

委員 各町消防団の組織構成のまま新市消防団となれば一体性がないと考えるが、合併前までに調整や方向性を持たすようなことはできないか。

部会長 6町で作っている京都府消防協会丹後支部の会合の中で、各団長さんにより協議されていると思うが、現在は団員確保が困難な実態に合わせた見直しが緊急の課題と考えている。また、車両部に何人といったことは、各町消防団の事情を考慮しなければならないと考える。

委員 災害は、3月1日に発生するかもしれないし、4月1日に発生するかもしれないので、速やかな対応ができるようにしてほしい。

委員 欠員のある町での消防活動はできているのか。

部会長 昼間に団員のいない地域もあり、災害時にこの人数でいいのかどうかということは答えられないが、最低限の人数は確保していきたい。

(2) 新市建設計画の具体化等について

主な意見

委員 私の地域では、消防団員の多くが他町に勤めており昼間いない。最近、新鋭車両が配備されたが、こんなことでは何のために配備されたのかわからないし、丹後町にある丹後広域消防組合の竹野川分遣所には消防車が配備されていない。消防車の配置は地域住民の願いであり、財政的にむずかしいのなら地域の消防車をそこに配置してもよいと考えている。こういったことから、常備消防が地域の消防の中でどのような取り組みができるかということ、今後の消防行政の中で考えていただきたい。

委員 町立の医療機関が2つあるが、夜間・休日診療などの地域住民サービスについて現在より拡大していただき、合併のメリットを示していただきたい。

委員 竹野川環境衛生組合や奥丹後養老施設組合満寿園についてはどうなるのか。

事務局 一部事務組合は、原則市の組織に組み込むことになり竹野側環境衛生組合は市の

組織になると考えるが、満寿園は例外的な事務組合で設置された養護老人ホームであり協議中である。また、社会福祉法人の関係は町の組織から外れているが、土地の無償貸付などの債権は引き継いでいくという方向である。社会福祉協議会とシルバー人材センターは法律上、1市1団体ということで協議をしていただいている。

- 委員 支所にどういう課が配置されるのか、またその人員配置はどうなるのかなど、具体的な支所の姿を早く見せてほしい。
- 委員 協議するたびに建設計画がよくなっていっていると感じる。市の教育については新市になってからでなく、6人の教育長が具体化に向け協議をしていってほしい。その中で、新市の教育の目玉となるようなこと、例えば学力をつけるという意味で「預かる学校」「学力をつける学校」という標語を出し、夏休み、冬休み、春休みに生徒を預かるなどの具体案を出してほしい。東京都の品川区は学校選択が自由になっており、このため学校自体が企業のように生徒を集めるため努力をしている。新市建設計画の基本理念に従って、知恵とアイデアを出してほしい。
- 委員 旧村単位にあった村役場を復活させ、そこにパート、ボランティアを置き、サービスや地域との交流ができるようにならないか。さらに電子自治体を実現し、各家庭とつなぎ情報・サービスを早く伝え、また住民の考えを吸いあげるといような血の通った行政をおこなうことはできないか。
- 委員 将来職員が削減されて、6つの庁舎が機能するのか、また管理面において将来に負担が発生してこないか。高齢化は長生きということではいいが、少子化については少ない子供をいかに地元に残せるかということで、合併によりいかに仕事の間を確保するということを考えていかねばならない。新しい町づくりと言っても子供がいなければ話にならないので、将来につなげるためにも、英知を結集して新市の姿を描いていただきたい。

(3) 次回の議題について

協定項目の協議について

(4) 次回の小委員会の日程

第9回総務・企画・議会小委員会

日程 平成14年11月27日(水)午後1時30分

場所 峰山町役場

文責 峰山町・大宮町・網野町・丹後町・弥栄町・久美浜町合併協議会事務局

(速報のため、事後修正の可能性あり)